

# LISTEN

LIBRARY SERVICE OF TEACHER EDUCATION NEWSLETTER



特集：レ・クリエーション

VOL. 18

# タイトル



2019年1月に電通が公表した調査によれば、日本におけるLGBT人口は8.9%。この比率を単純に当てはめれば、学校のクラスに3、4人の割合でLGBTの子どもがいることになります。

多感で傷つきやすい思春期を過ごす学校生活において、彼ら性的マイノリティを含めた真にインクルーシブな環境を作るために、教師ができることは何か。そして、教員養成大学において、学生が学んでおく

2019年1月に電通が公表した調査によれば、日本におけるLGBT人口は8.9%。この比率を単純に当てはめれば、学校のクラスに3、4人の割合でLGBTの子どもがいることになります。

多感で傷つきやすい思春期を過ごす学校生活において、彼ら性的マイノリティを含めた真にインクルーシブな環境を作るために、教師ができることは何か。そして、教員養成大学において、学生が学んでおく

2019年1月に電通が公表した調査によれば、日本におけるLGBT人口は8.9%。この比率を単純に当てはめれば、学校のクラスに3、4人の割合でLGBTの子どもがいることになります。

多感で傷つきやすい思春期を過ごす学校生活において、彼ら性的マイノリティを含めた真にインクルーシブな環境を作るために、教師ができることは何か。そして、教員養成大学において、学生が学んでおく

2019年1月に電通が公表した調査によれば、日本におけるLGBT人口は8.9%。この比率を単純に当てはめれば、学校のクラスに3、4人の割合でLGBTの子どもがいることになります。

多感で傷つきやすい思春期を過ごす学校生活において、彼ら性的マイノリティを含めた真にインクルーシブな環境を作るために、教師ができることは何か。そして、教員養成大学において、学生が学んでおく



公園で教育と遊びの祭典

# BLUE CLASSES FES



教育の夢を見よう！



テーマ

## レ・クリエーション

遊びがなければ創造もない

私たち兵庫教育大学は、神戸の東遊園地に飛び出して地元神戸のゲストとコラボしながら、思いっきり遊び、創り、学ぶ青空教室フェス BLUE CLASS を企画しました。自然環境に配慮しながら、身の周りの“ありあわせ”を材料として豊かな価値を創りだすプリコラージュ的思考により、学びの再発見・再創造をしてみませんか？

BLUE CLASS は、あなたの学びの場とあらたな学びの輪を紡ぎ出します。

ゲスト



永田宏和  
(企画・プロデューサー / KIITO 副センター長)

1968 年兵庫県西宮市生まれ。93 年大阪大学大学院修了。企画・プロデューサー。「+クリエイティブ」をコンセプトに様々な分野の社会課題解決に取り組む。主な仕事に、都市キャンペーン型アートイベント「水都大阪 2009・水辺の文化座」、楽しく学ぶ防災訓練「イザ！カエルキャラバン!」、子どもがつくる夢のまち「ちびっこうべ」などがある。



島田 陽  
(建築家/タトアーキテツ)

1972 年神戸生まれ。1997 年京都市立芸術大学大学院修了後、直ちにタトアーキテツ/島田陽建築設計事務所設立。「六甲の住居」で第 29 回吉岡賞、「石切の住居」で日本建築設計学会賞大賞他、受賞多数。著書に『7ip #04 YO SHIMADA』『現代建築家コンセプトシリーズ 22/日常の設計の日常』等。神戸大学等非常勤講師。京都造形芸術大学客員教授。



首藤義敬  
(はっぴーの家ろっけん代表)

23 才で遊休不動産の活用事業や神戸市長田区を中心に空き家再生事業を始め、27 才で法人化に至る。自身の生い立ちから多世代がシェアで暮らす昔の日本のようなライフスタイルを作ることが少子高齢化問題を解決する方法の一つになると気付きハッピーの家プロジェクトを始動。将棋と珈琲を愛する 35 才。屋までダラダラ寝たい脱力系起業家代表。



砂田 沙紀  
(海運堂主宰)

1984 年、兵庫県姫路市生まれ。関西大学社会学部卒。合気道の師範である思想家・内田樹氏の助力を得て、2014 年より神戸市東灘区の自宅を「海運堂」と称し、住み開きの形で食事会や絵本の会など様々な催しを開いてきた。2019 年に海運堂を NPO 法人化、7 月には別館を設け、さらなる居場所作りに取り組んでいる。現在長女 6 歳、長男 3 歳、次男 1 歳。

2020  
5 / 23 (土)  
10:00 - 17:00

曇天決行。荒天の場合は、5/30 (土) に延期。

ところ

## 神戸市東遊園地

(JR三宮駅下車、南へ徒歩約7分。神戸市役所横。)

対象

教育関係者・一般市民

トークライブ

「2つのソウゾウリョク」〈永田宏和 × 花輪由樹〉 / 「うちとそとのあいだ：境界線乗り越える」〈島田陽 × 坂口真康〉 / 「家族のプリコラージュ：寄せ集めて自分でつくる」〈首藤義敬 × 砂田沙紀 × 永田夏来〉

アカデミック・カフェ

「哲学カフェ：学校から屋根をとったら？」〈ファシリテーター：森秀樹・青木伸也〉 / 「Cofee と Home Economics」〈星野亜由美・花輪由樹・関西家政学原論研究会〉

ワークショップ

「ひょうごもんゴラージュ：兵庫の物産でアートしよう！」〈村上裕介・浅海真弓〉 / 「瓶 Session：瓶楽器を作って演奏しよう！」〈安若優梨子・廣畑まゆ美〉 / 「小さなサイエンティストを育てるシャボン玉 WS」〈今田三樹子・赤木恭和〉 / 「(仮) DIY で椅子づくり」〈WHATNOT HARDWEAR STORE・林昌宏・三木邦彦〉

キッズ

「GENKI キッズ」〈子育て支援ルームかとう GENKI〉

フリーマーケット

「Give-Away Shop：モノと想いの交感（交換）フリマ」

フード

マゴハヤサイキッチン / まめぶ

イベントの詳細は <https://note.com/blueclass>



トークライブ

アカデミック・カフェ

## 「2つのソウゾウリョク」

〈永田 宏和氏 × 花輪由樹 助教〉 11:00-12:00



「ソウゾウリョク」には、「イメージする」、「考える」、「新しくつくる」、「紡ぎ出す」等が含まれます。子ども達がどのような状況下でもイキイキと生きられるためには、どのような「ソウゾウリョク」が必要でしょうか。



## 「うちとそとのあいだ ～境界を乗り越える～」

〈島田 陽氏 × 坂口真康 講師〉 12:30-13:30



「うち」と「そと」あるいは「わたしたち」と「あなたたち」を分ける境界は、いつだれが決めたのでしょうか。「あたり前」のように捉えられている境界を疑い、それらを乗り越え得る手立てを一緒に考えてみませんか。



## 「家族のブリコラージュ ～寄せ集めて自分でつくる～」

〈首藤 義敬氏 × 砂田 沙紀氏 × 永田 夏来 准教授〉 14:00-15:00



家族ってなんだろう？という問いは、自分が持つ常識の見直しにつながります。簡単なようで難しい「家族らしさ」について、一緒に考えてみましょう。



## 哲学カフェ

## 「学校から屋根をとったら」

〈ファシリテーター：森秀樹教授・青木伸也（大学院生）〉 ALL DAY

BLUE CLASS という活動は「青空教室」をイメージしています。学びの場だから「教室」ですが、校舎にある教室を飛び出しているのが「青空」というわけです。もちろん、教室に屋根や壁があるのは外界に左右されずに学習活動ができるようにするためですが、同時に、環境から切り離すことは学びを制約することにもつながっています。教室でありながら、同時に、境界を開くことについて考えてみたいと思います。



## 「Coffee Home Economics」

〈星野 亜由美 助教・花輪 由樹 助教・関西家政学原論研究会〉 ALL DAY

生活と科学との関わりについて、コーヒーブレイクをしながら一緒に考えてみませんか？

家庭科の背景学問の1つである「家政学」の専門家が、1杯のコーヒーから人間生活を見つめる「アカデミックなおしゃべりカフェ空間」を用意しました！

“Academic Café”では、コーヒーと生活についての素朴な疑問を考える「Coffee Home Economics 50の問い」コーナーや、子どもも大人も参加でき生活に活かせる「コーヒーパウダーのワークショップ」とともにお待ちしております！



## ワークショップ

## 「ひょうごもんコラージュ ～兵庫の物産でアートしよう！～」

〈村上裕介教授・浅海真弓准教授〉 ALL DAY

やきもの、皮革、ソロバンの玉などなど、私たちの兵庫県を代表する産業活動のなかで出たお宝（素材の端っこや商品にならなかったモノ）＝「ひょうごもん」を自由に組み合わせ（コラージュ）、素敵なアートを作っちゃおう！君のアイデアを形にするのを大学生や美術の先生からなる「アートお助け隊」のメンバーがバックアップ。青空の下、魅力的な素材に触発され、楽しく造形活動するなかで、知識・技能、思考力・判断力・表現力がきつと育まれるはず！



## 「小さなサイエンティストを育てるシャボン玉ワークショップ」

〈今田三樹子・赤木恭和（大学院生）〉 ALL DAY

使わなくなったものを使って、たくさんのシャボン玉や大きなシャボン玉を作り、空高く飛ばしませんか？子どもだけでなく、大人の方も不思議なシャボン玉の魅力が楽しめるワークショップです。さらに、「割れにくいシャボン玉液の実験教室」を同時開催。子ども達は、小さなサイエンティストになれるかも!? シャボン玉のしくみや割れてしまう原因を科学的に学び、自分だけのオリジナルシャボン玉液を配合してみよう。うまくいけば、シャボン玉でお手玉ができますよ！幻想的なシャボン玉を理料的な視点で考えてみませんか？



## 「瓶session ～瓶楽器を作って演奏しよう！～」

〈安若優梨子・廣畑まゆ美（大学院生）〉 12:15-13:45

空き瓶を使った楽器作りを通して「音」の美しさを感じ取りながら、音楽を創造するワークショップです。音楽は、古来、人の生活と密接に関わりながら自然に生まれてきました。時代を経てたくさんの素晴らしい音楽が誕生し溢れていますが、一方、「音」そのものの美しさを感じるような機会は少なくなっているように感じます。自分の手で楽器を作ることで、音をよく聴き、自分が素敵だと思う音を見つけていきましょう。思いもよらなかった響きが生まれるかもしれません。最後はみんなで合奏し、1回きりの素晴らしいステージを作りましょう！



## 「Return of the trash ～ゴミ達の帰還～」

〈WHATNOT HARDWEAR STORE〉 ALL DAY

ゴミってなんだろうね。どんなものがゴミなんだろうね。それはゴミかな？どうなったらゴミかな？なんてことを考えているうちにゴミたちが帰って来る！道具を手にゴミたちが還っていくのを手伝おう！新たに何かの役に立つプロダクトとして還れるように！一度はゴミとして捨てられたことが信じられないくらいに！想像すること、楽しむこと、それさえできれば誰でもできる！自分のために、誰かのために、誰でもない何かのために。～Return of the trash～ゴミたちが帰って来る！還っていく！



# 甲南大学図書館が、 利用できるようになりました。

読みたい資料が他大学の図書館にある場合、附属図書館に取り寄せるといいう方法もありますが、その図書館を訪れて利用したいというケースもよくあります。でも、とりわけ私立大学はアポなしで訪れても利用できないケースが一般的。多くの場合、附属図書館の紹介状が必要になります。

昨年3月に締結した甲南大学との連携協力に関する協定書に基づき、この度、両図書館において図書館所蔵資料の相互利用に関する覚書を定めました。これにより、本学の学生・教職員は、附属図書館の紹介状がなくても、甲南大学図書館を直接訪問して利用できるようになりました。



2階カウンターでは、美しいアンドロイド司書があなたを出迎えてくれるでしょう。話しかけたら、人間さながらの会話が楽しめる、かも？

甲南学園の創設は、明治期から昭和初期にかけて、経済界・政界等で活躍した平生凱三郎。その図書館には、社会科学分野を中心に54万冊の蔵書が並ぶ。



## 図書館開館時間

開講日・試験期間 平 9:00-21:00 土 9:00-18:00  
 休講日 平 9:00-17:00  
 夏季休業期間 平 10:00-16:00

◎休館日 日・祝、入試期間中、夏期・冬期休業中の一定期間など  
 HP : <https://www.konan-u.ac.jp/lib/>

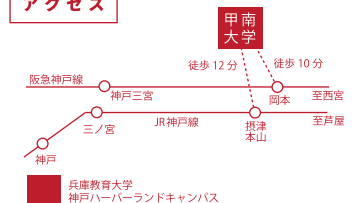


## サイバーライブラリ開室時間

月～土 9:00-21:00  
 日・祝 9:00-17:00

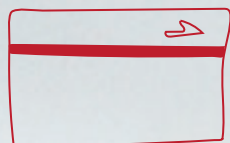
◎休室日 夏期・冬期休業中の一定期間  
 HP : <https://www.konan-u.ac.jp/cyber/>

## アクセス



# 甲南大学図書館で、こんなことができます。

## 利用者登録無料



甲南大学図書館の窓口で、兵庫教育大学の学生証・教職員証を提示し、図書館利用票に記入すれば、入館することができます。図書館及びサイバーライブラリの所蔵資料の閲覧や施設の利用ができます。館外貸出を希望する場合は、利用証が必要ですが、無料で発行してもらえます。入館の際の利用票記入の手間も省けるので、リピーターにはお勧めです。

※一部、利用できない資料・施設があります。  
※利用証再発行の場合は、1,000円かかります。

## ゆったり快適な施設利用



図書館前の広場を挟んで向かいに建つ5号館の3階に、2014年にリニューアルオープンしたサイバーライブラリ。本学で言うラーニングcommons PAOのような共同学習向けのスペースです。PAOとの違いは、白を基調とした氷原のようなその広大さ。2,322㎡の空間に円形テーブルが点在し、ゆったり快適なアクティブ・ラーニングに臨めるはず。

## お得な館外貸出サービス



利用証を発行すれば、本の館外貸出ができます。一般図書は、10冊まで2週間借りられます。また、MyLibraryにログインすることにより、他の利用者が借りている本に予約をかけたり、自分が借りている本の借用期間を延長できます。他キャンパス（西宮・ポートアイランド）所在の本の取り寄せ申込みも可能。

## 持ち込み端末でネットも



館内のPCコーナーは利用できませんが、持ち込みPCで、Wi-Fi (eduroam)が利用できます。本学の基本利用アカウントでログインできます。また、図書館2階ヘルプデスクの専用端末で、甲南大学が契約している電子ジャーナルや電子ブック、データベースが利用できます。プリントアウトもできます。(1枚10円)

※一部、利用できない電子コンテンツがあります。

~~~~~  
図書館間の相互協力は信頼によって成り立ちます。

甲南大学図書館を訪問する際は、本学図書館以上に、ルールやマナーを意識して利用しましょう。

~~~~~

# ホン・サンスの視点

韓国映画の鬼才、ホン・サンスの近作『正しい日間違えた日』が面白い。観光地で出会った男女が意気投合し、カフェで語り、女のアトリエを男が訪ね、夜は居酒屋をはしごして、そうして別れるというだけの何の歪みもないストーリーを、微妙に異なる二つのバージョンで展開する物語である。よくある“ifもの”みたいに明確な分岐点があるわけではなく、二つの岐路の結末が劇的に異なるというわけでもない。それらはほぼ同じ話であり、どちらかと言えば、一方が他方よりハッピーエンドだったというくらいの差異に過ぎない。

ホン・サンスは、撮影当日に台詞を用意するという即興性で知られている。もしかしたら、気まぐれに撮ったTake 1とTake 2をそのまま使ったら、こんな微妙なifものができたということなのかもしれない。

それにしても、観光地、カフェ、アトリエ、居酒屋といったわずかに数シーンを二度繰り返しただけ、しかも各シーンのカメラアングルはほぼ固定だから、ずいぶん手抜き映画だと思ってしまう。カメラの動きで目立つのは、ズームイン/アウトの乱発で、その様はまるで運動会で我が子の雄姿を撮るために、新調したばかりのハンディカムを操作する素人全開の手際なのだ。ズームインは普通、画面の一部をピンポイントで強調するために行われる技法だが、ホン・サンスの場合、その必然性が感じられないような場面で、それが用いられることが多い。だが、そのカメラワークには独特の魅力がある。

ところで、話は変わりますが、私は近年学部新入生を対象としたクラスセミナー（初年次教育）の一コマを担当させていただいている。大学生になると、自分でテーマを設定し、先行研究を調べ、考察した結果を文章にまとめなくてはならない。その先行研究の調査のフェーズを担当させていただいているのである。だが、ゴールである文章化のモチベーションがないまま、手段ばかりをいたずらに喧伝しても暖簾に腕押し感が否めないで、私は冒頭の数十分ほどを、僭越ながら「なぜ書くのか」についての講釈に当てることにしている。その際に、拠り所としているのが、M・マクルーハン著『ゲーテンベルクの銀河系：活字人間の形成』である。ゲーテンベ

ルクは、周知の通りルネサンスにおける三大発明のひとつ、活版印刷術を発明した人である。マクルーハンは、活版印刷術による刊本の登場が、人間の神経生理にいかん大きな影響を及ぼしたかを、文学や美術、数学、建築など様々な分野のテキストを博引旁証しながら解き明かしていく。たとえば、絵画における透視図法（二次元の世界に三次元の世界を作る手法）の発見は、人間に読書の習慣がついたことの結果だという。そのからくりはこうだ。ゲーテンベルク以前の写本の時代、読書のスタイルは音読だった。すなわち、文字を視覚的に知覚し、それを一旦音声に変換し、その音声を自分の耳で知覚することにより理解するというプロセスである。しかし、本の大量生産により情報量が増大すると、この「迂回ルート」では非効率になる。そこで、人間が編み出したのが、見ただけで直接理解してしまう荒技、「黙読」の技術である。ところで、黙読をするとき、私たちの目は文字を逐語的に辿っているわけではない。すなわち、点の連続としてではなく、線的に、あるいはさらに高度な場合は、面的に読むことができる。速読家の斜め読みは、面的な読書の究極の姿である。このような読みができるためには、目の焦点をページではなく、ページのやや前方に合わせなくてはならないらしい。この、やや前方に焦点を合わせ、その風景全体を視野に収めようとする、新しい視覚のあり方（マクルーハンは、これを「視覚的囲い込み」と呼ぶ）が、二次元の絵画に奥行きをつくる透視図法を生んだと言うのである。ちなみに、文字を持たない純粋な遊牧民族が家を持たないのは、視覚的囲い込みをする目をもっていないかららしい。

非文字型社会の人間の目が三次元的視覚をもたないことを示す別の例として、マクルーハンは、動画を見たアフリカ人の反応について報告したある研究を引用する。その動画は、ひとりの男が家屋内の地面に溜まった水を空き缶を使って、衛生的に排出する方法についてレクチャーするものだった。非常に緩慢なテンポの映像が約五分つづく。見終わったあと、動画の製作者が「何を見たか」と尋ねたところ、三十人ほどの観衆が異口同音に「鶏がいた」と答えたという。製作者側は鶏を撮った覚えはなかったのだが、

あらためて注意深く映像を辿ると、途中ほんの一瞬だけ、画面の隅を横切る鶏がいたのだという。もちろん、彼らの目は男の姿も捉えていたのだが、俊敏に動く鶏の存在感に比べると、印象には残らなかった。製作者側が見てほしいと思ったものは彼らの目に留まらず、製作者側が気づきもしないものに注目するという、このすれ違いの原因を、マクルーハンは文字使用の有無に求める。

「文字使用は人間にイメージのやや前方に焦点を合わせる力を与え、それによってイメージもしくは絵の全体像を瞬間的に概観することが可能となる。非文字型文化の社会のなかに生きるひとびとはこのような後天的に獲得された習性をもたないし、そのためにわれわれが見るようには事物を見ない。」

画面の一部をクローズアップするズーム・インの手法を繰り返すホン・サンスのカメラは、どこか鶏を追うアフリカ人の目と重なる。画面中央に映る被写体は、そのシーンにおいて中心的な役割を担うという、我々の固定観念（フィルム・リテラシー）を、ホン・サンスは大胆に揺さぶってくる。この監督の魅力は、一言でいえば、「物語」への無関心である。それは、文字をもたない人間の目が画面の細部に執着し、映像から話を組み立てられない様に似ている。マクルーハンはこう続ける。

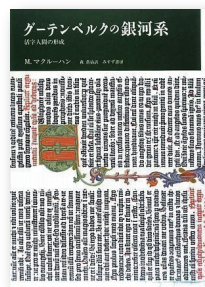
「彼等は対象を離れたところから客観視する視座をもたない。彼等はまったく対象と「共に」あり、対象のなかに感情移入によるのめり込む。」

それは、たとえば、運動会で我が子の雄姿を撮影する親の視点である。親にとっての関心は我が子そのものであり、我が子が演じる競技の行方（物語）はその範疇にはないのだから。

『正しい日間違えた日』が、他のホン・サンス作品と比べて出色なのは、そんな風にアンチ物語の姿勢を貫いているにもかかわらず、きちんと物語として成立させている点である。それは、何というか、仲の悪かった友達がいつの間にか恋人になっていたときみたいな、妙な幸福感を見る者に味わわせてくれる。例えば微妙で恐縮ですが、オススメの映画です。



『正しい日間違えた日』  
監督・脚本：ホン・サンス  
/ 出演：ジョン・ジョエン、  
キム・ミニ / 2015年



『ゲーテンベルクの銀河系：  
活字人間の形成』  
マーシャル・マクルーハン著  
(森常治訳) / みすず書房  
/ 1986年



## モノ、募集！

学生・教員

読み終えた本、使わなくなった雑貨、自分のZINE（自主製作の出版物）など、誰かに譲りたい・お薦めしたいモノはありませんか？  
現在、附属図書館では、GIVE-AWAY SHOPへの出品物を募集しています。ご出品いただいたモノは、5月23日（土）、東遊園地で開催されるBLUE CLASSフェスで、あなたの“想い”とともに、誰かのもとへ、ギブアウェイされます。

- 〈出品できるモノ〉 本、CD・DVD、雑貨、衣服など
- 〈出品できないモノ〉 飲食物・動植物・大型物品・契約を伴うものなど
- 〈募集期間〉 2020年4月末日まで ※当日の持込による出品も可
- 〈出品方法〉 図書館エントランスで、メッセージタグを記入の上、カウンターにご提出ください。



## ヒト、募集！

学生

現在、図書館と教材文化資料館（図書館にある小さな展示室）のアルバイト（大学院1年）を募集しています。また、5月23日に神戸市東遊園地で開催予定のBLUE CLASSフェスで、イベントをいっしょに盛り上げてくれるボランティアスタッフも大募集！  
イベント好きな方、写真好きな方、体力に自信のある方などなど、学部生・大学院生問わず広く募集しています！興味がありましたら、図書館スタッフにお気軽にお尋ねください。写真は、図書館兼資料館アルバイト、兼BLUE CLASSボランティアの伊藤有希さん（専門職学位課程小学校教員養成特別コース2年）。



## 編集後記

WHATNOT店長の湯村ケイ氏（表紙の赤い人）は、ゴミフェチである。昆虫フェチの養老孟司氏は、道にお金と虫が落ちていたら、虫に目がいくと言っていた。もし道にお金とゴミが落ちていたら、湯村氏はゴミを選ぶだろう。氏の手にかかれば、ゴミが商品に生まれ変わ

る。がだからといって、氏はゴミの錬金術師というわけではない。モノに対してゴミというレッテルを外し、多少の細工と愛情を加えて別の用途に使う、ただそれだけのこと。でもそれだけのことが結構難しい。今回のBLUE CLASSはWHATNOTさんとの共催です。(N)